

# 長崎自然共生フォーラム News Letter

秋号（第14号） 2013年10月1日 発行

特集 —

## 環境先進国ドイツの話題 （現地見聞による最新情報）

長崎総合科学大学 名誉教授 宮原和明

2010年9月と今回（2013年7月）ドイツ環境先進都市を視察調査する機会がありましたのでその取り組みを紹介いたします。

地球温暖化とは、1850年頃からこの150年間、人類が化石燃料（石炭・石油）を大量に消費したため、大気中のCO<sub>2</sub>濃度が上昇し、地球規模で平均気温の上昇と気候変動（極端化）が生じその影響が危機的な状況になりつつあるということです。地球の平均気温トップ10が1995年からの15年間に集中し、日本でも夏の最高気温が40℃になる地域が普通になりつつあります。どうしたら良いのでしょうか？ その対策として21世紀中の100年間に地球の平均気温上昇を2℃に抑え、気候変動を安定させるためには欧米や日本などの経済先進国は、1990年比で-70～80%の二酸化炭素等削減（温室効果ガス）が求められています。

1997年に締結された京都議定書では、温室効果ガスを2008年～2012年までに日本は基準年比（1990年）で-6%、EUヨーロッパは-8%を約束しました。日本は達成できない中、ドイツだけは既に-20%以上を実現しています。ドイツが環境先進国と言われる所以がここにあります。日本ができなくて、ドイツができたのはなぜでしょう？ それは行政・事業者・市民の協働深化と社会システムの変革を伴う環境政策や法整備などの違いがあります。具体的には 石油・石炭などの化石燃料使用を減らすための環境税の導入。

また日本の温暖化「対策」は個人、企業、団体の自発的な努力に任せられており、社会状況がその努力を困難にしたり、効果を限定的にしています。「対策」ではなく将来ビジョン、戦略にもとづく政策やプロジェクトを実現しているのがドイツです。例えば自動車ではなく公共交通機関や誰もが自転車を快適に利用できる交通システム。飲料はすべて再利用容器に置いて販売するシステムなど個々の努力だけに頼らないシステムが実現しています。またエネルギー

ーは原子力や化石燃料を減らし、再生可能エネルギー（太陽光、風力、バイオマス発電など）を20%目標（2020年）にし、環境負荷を減らし雇用を増やす政策も実現しています（日本はまだ1～2%で桁違い）いくつかの事例を写真で紹介いたします。

今回スウェーデン・ストックホルム市も視察し、11,000世帯、人口35,000人、10,000人の職場、の再開発エコシティ ハンマビー・ショースタッドを紹介いたします。エネルギー、交通、ゴミ廃棄物、生物多様性等を統合的にデザインして、都市全体のCO<sub>2</sub>を30～40%削減した21世紀型持続可能なエコシティを実現した先進事例であります。



ドイツ・ハノーファー市交通公社のハイブリッドバス



ハノーファー市 クロンスブルグ地区のエネルギーを40%減らした住宅団地

## ネイチャーゲームリーダー養成講座（長崎県会場）に参加して

西部環境調査（株） 来崎良輝

平成 25 年 8 月 31 日～9 月 1 日の 1 泊 2 日の工程で、養成講座があったので参加してきました。場所は国立諫早青少年自然の家。台風は少しそれて遠ざかっていましたが、その影響が少し残り、風はそれほどでもないけども、雨が時折強く降る天候の中で実施されました。

まずはネイチャーゲーム（以後、NG と略す。決して N.G. ではない。）について、少しかじったところ等を書いてみたいと思います。

私が NG を知ったのは、単行本からである。ジョセフ・B・コーネル著「ネイチャーゲーム 2」（1991）を読み、その後、ネイチャーゲーム 4 とネイチャーゲーム 1 をたまたま福岡に行く機会があるときに、駅前の書店で見つけて購入した。やはり題名が良い。“自然での遊び”という題名のニュアンス（勝手な思い込み）が手に取るきっかけになる。読んでみるとまた面白い。いくつものゲームのやり方が書いてある。これは何かに使えるのでは。。。？（全 162 ゲームあるようだ）

私はここ 20 年程度、調査会社に勤務し、調査をすることを生業にしていることから、時折、環境教育の機会も得られることがある。そのため過去において、自然観察指導員（日本自然保護協会）やビオトープ管理士（日本生態系協会）の資格を取得したりしてきた。これらの資格はどちらかというとし業の方向性と同じく、上から目線で“教えるよ。”といった自然解説者のようなスタンスである。しかし、現場で子どもたちに触れ合うと“教える”といったものは必要ないのである。子どもは生物の名前やその存在の意味などどうでもよく、自然と触れ合うことを本能として持っている。安全さえ確保できれば、ほっといても自然と自然に溶け込むものである。実際、私もそうであった。ついつい歳をとるにつけ自分の居場所を欲しがっていたのである。そのような経験をする中で、知ったかぶりの知識を振りかざす環境教育も 1 つの方向であるが、また違う視点がこの NG にはあると思った。

NG の背景にあるシェアリングネイチャーとは、直接的な自然体験を通して自分を自然の一部としてとらえ、生きることよる喜びと自然から得た感動を共有することによって、自らの行動を内側から変化させ、心豊かな生活を送るという生き方を目指しています。（うん。言葉にすると少し難しい？）よってリーダー等には、参加者とともに自然を感じ「わかちあう」ことより「自然への気づき」を深めることを教えられ、人がもつ感覚の違いを敏感に感じつつ、発見そして共有し、受身になり自然と人とのつなぎ役に徹することを求められています。

さて、講座の中身ですが、講義と実習があり、私が嫌いな講義は少なく、必要不可欠なものを伝えるだけの時間しか取っていないと感じた。よって、多くは実習に費やされる。



ミュンスター市 駅前地下の自転車駐輪場（3800 台収容）  
ドイツ鉄道の列車や都市バスすべてに自転車を  
乗せることができます（乳母車も）。



ミュンスター市の城壁跡の自転車専用道  
（自転車のアウトバーン）



スウェーデン・ストックホルム市の 21 世紀型エコシティ  
ハンマビー・ショースタッド

まず最初は、自己紹介から始まった。これもゲームの1つであり「はじめまして」No. 48 というゲームを実習することから始まるのである。あらかじめ質問が書かれているカードをもらい、時間内に多くの人に質問し、質問されながら自己紹介を兼ねるといふもの。全くの初対面同士でもゲーム感覚で楽しめる。そして、2日間で12のゲーム実習をこなす。最後は「フォールドポエム」No. 113 というゲームで締めくくられる。複数人でチームになり、ポエムを繋ぎあうというもの。前の人を書いた1行しか見れず、その答えを書き、次の人への1行を書き渡すことで作られる詩は、最後に発表される。全体を見ているわけではないのに、不思議にきちんと収まる。おもしろい。

また、途中のゲームで私の記憶にあるのは、「サウンドマップ」No. 49 というゲーム。一枚の白い紙をもらい、自然の中に入り（この時は雨で、屋根の軒下で屈んで周囲の音を聞いたのだが）聞こえた音を絵にして表現するというもの。出来た絵それ自体にも人の感性、個性が見られ面白いのであるが、私は雨の音にも多くの音があることに気づいたことに感動した。♪雨雨フレフレ母さんが・・・ピチピチ、チャップチャップ、ランランラン♪にも複数の音が書かれているが、一人黙って聞いていると、自然と多くの音が聞こえてくるのである。

日々せわしく追われるような生活の中で、本来聞こえるものを聞かずに生活してきている。この生活を変えることは出来ないのかも知れないが、この生活とは違うものが近くにあることを感じさせてくれたゲームであった。

多くの気さくな指導者の方にも恵まれ、10人の新しい仲間とも知り合うことが出来た。非常に有意義な時間であった。夏休み最後の週末なのに参加させてくれた家族に感謝。そして知り合えた多くの人に感謝。ありがとう。

追伸：興味ある方は、ネイチャーゲームでパソコン検索するとヒットしますよ。

## 風景（自然）保護は土地売買（環境と経済との共生）を乗り越えられるか？

### ～「日本、買います」消えていく日本の国土～から（続き）

川里弘孝

（前号あらまし）著者（平野秀樹：東京財団上席研究員）は、外国人による土地買い付けを”氷山の一角”として買い戻せない現実に警鐘を鳴らしている。

第5章は、結論と思われるが“グローバル化の先の盲点を三つ”をあげている。その一つは「利害の不一致」で、グローバル企業の目的は短期間の回収であるが、日本固有の歴史と持続性ある地域社会や産業との希求とが一致しない、二つ目は「住民とのコミュニケーション不通」で、三つ目

の「徴税できない」（徴税困難となり、土地が死蔵財産：dead stock となる）である。「開国、TPP 本格化の前に急ぐべきこと」は土地制度（地籍・登記）の不備をなくすことだ、という。ここで忘れてならないことは「すべての事象が国境を越えない」ことで、規制緩和ばかりでなく規制強化（平和・環境・福祉など）も率先して国家が当らなければならない、つまり「負の財産は先送りしてはならない」と強調している。市場経済では土地は資本の一種で生産要素に過ぎない。消えた土地所有は消えた年金、消えた高齢者に続く難題なのだ。利用と所有の自由はローカルではグローバルに対抗できないのではないかと疑問を投げかけている。

“日本を消さない”ために、とりわけ安全保障にかかわる地区と人々が撤退して関心が薄れていく現実から、地域の不明資産は解消してゆくことが急務であるとして、次のような政策提言をしている。

- 1) 「国家安全保障土地法」 I種・・・より緊急性が高いエリア（国有化）；自衛隊・米軍基地周辺、空港・沿岸域など、II種・・・利活用の諸施策を講じ、計画・活用の共通指標を持つエリア
- 2) 「所有者不明土地対策法」 不明資産の権利整理を行って土地所有の透明化をすすめ、国土資産管理基金（国・県）、日本遺産基金（民）を創設して活用を図る
- 3) 条例等による地域のガバナンス力の強化 県は委任事務から脱却し、自ら行政判断する。さらにトラストなど民の土地管理等の試みへの高精度支援策が必要である。

あとがきの「羊の居場所」では、生態系にたとえゆっくり壊れてゆく生物社会があるならば、しかもその空間が魅力的であるならばそれを求める「強い個体」や「新種」が必ず現れてくる。強者は譲歩しないから弱いところが狙われると言い、「諸外国並みの土地規制を欠いたまま、グローバル化を急いでおり、一方では不明資産が無価値化しはじめている」現実に警鐘を鳴らしている。

出展：「日本、買います 消えて行く日本の国土」平野秀樹（2012）。新潮社、207pp.

（以前、無人島調査を企画して実践した自分にとって、筆者の論は多くが共鳴、同感した。川里弘孝）

## 日本に住む、我々は後には戻れないが・・・～「未来国家ブータン」（高野秀行）から

事務局

ブータン王国の農業省国立多様性保全センター調査員として、TK（伝統的知識）調査を考え出すことに関心を持った著者は、生物資源探査と称して民俗学的臭いのする“雪男（イエティ：ミゲ）”調査に乗り出す。その踏査記録から1) 代替薬品の開発は密漁防止の補完システムである、2) 自然保護・環境保全の先駆者はダライ・ラマで、3) その思想を

実践したのは先代ブータン国王（現国王は4代目）である、4) 同じ仏教徒でも宗派(ゲルク派)が異なり、中国・雲南省系(ドク派, ゾンカ語)に近い、5) 天国に一番近い村とされるのはラヤ（仏教伝播はパロからティンパー・フロイカ・ガサを経てジャカル・タンガン→ランシュン→サクテン村：最東部で最奥の秘境へ）、5) 焼酎は歓待と現金収入と解放のためにある、6) 単一民族ではなく多民族国家、環境保全国家、7) 経済合理性を超えた最先端思想を持つ、8) 伝統文化と西洋文化がブレンドされた人工国家であることが伝わる。ブータンは英語が公用語だが国家成立の歴史的考察にもふれている。もともとこの地には二つのヒマラヤ国家があり、シッキム王国はインドへ、チベットは中国となった。ブータンはその狭間で中国の侵攻後ネパール系民族が増え、中国・インドとは一線を画す多民族国家となつたらしい。著者は、6), 7), 8) およびその歴史から、先進国のよい所だけ取り入れて悪い所はすべて避けて世界の他の国とは違う進化を遂げている、ブータンを「未来国家」と認識している。(川里弘孝) 出典:「未来国家 ブータン」(高野秀行) 集英社, 267pp.

## 「九州発！環境・エネルギー技術のアジアへの発信」：長崎市平成24年度「環境セミナー」から

事務局

2013年2月に2回、“メルカつきまち”で開かれた。いずれも環境未来都市・北九州市からの派遣講師で、1回目(2/13)は環境局未来都市推進室(室長補佐)による「スマートコミュニティ創造事業」、2回目(2/27)はアジア低炭素センター(公財：北九州国際技術協力協会・テクニカルマネジャー)による「アジアグリーンイノベーションの先進事例-アジア低炭素センターの取り組み」であった。5年間にわたる経済産業省の補助事業(38事業・163億円)に関する講演で、市内企業関係者30名近くが集まった。

「スマートコミュニティ創造事業」は、地方中核都市型の実証事業で“地域節電所”を設置して地域発電を±3%コントロールしたり、熱供給しようとするもので、各家庭や病院・ホテル・工場など事業所にスマートメーターを取り付けてピークカットしたり、配管したりしているとのことで、H22年度からはじまっている。

「アジア低炭素センター」もその一環で、“緑の成長戦略：アジアへ環境都市インフラ輸出”として研修員受入・専門家派遣など環境国際協力を行っている。とくにインドネシア、インド、中国との主要プロジェクトを推進し技術輸出を図り、関係機関との協力関係の構築を行っている。地域経営戦略として北九州市はアジアのグリーンイノベーション推進拠点化(総合特区+環境未来都市=地域経済活性化(雇用)を目指している。その具体例として、①グリーンシティの輸出(スラバヤ市：廃棄物処理・河川浄化・水

道水浄化・飲用水)、②スラバヤ市：工業団地コジェネ&省エネ、③スラバヤ市およびスンパワ地域：BOP(Base of Pyramid)プロジェクト：太陽光発電による浄水装置実証実験、④大連市・ハノイ市・ホーチミン市：節水型住宅設備機器の普及、⑤マレーシア：グリーンタウンシッピング構想の支援、⑥マレーシア：トータルリサイクルサービスや、タイ王国における省エネ証明の実証試験、インドネシア(スラバヤ市)におけるヒマシ油精製の実証試験・廃棄物中間処理事業可能性調査・リサイクル型廃棄物中間処理パイロット事業・下水道整備事業、カンボジア国(プノンペン市)における上水道整備事業、ベトナム(ハイフォン市)における上下水道整備事業、さらにBOCM(二国間オフセット・クレジット制度：Bilateral Offset Credit Mechanism)などアジア諸都市とCO<sub>2</sub>削減と同時に汚染の緩和や生活の質の向上を、市内企業を中心に海外でのビジネス展開により地域の活性化を推し進めてことを目指している、とのスライドによる詳しい説明があった。(http://www.asiagreencamp.net)

(さすが先進例、官民コラボの取り組みが伝わった。長崎市の熱意ある企画に感謝する。川里弘孝)

## 再生可能エネルギー推進フォーラムin長崎～自然エネルギーは地域のもの～、「緑の知の拠点事業シンポジウム」開かれる！

事務局

2013年2月16日13:00～18:00 ベストウエスタンプレミアホテル長崎(長崎市宝町)で開かれた。前者のフォーラムは長崎市主催(市民おひさまエネルギー利用会議体・東長崎エコタウン協議会共催)、後者のシンポジウムは長崎総合科学大学主催の同時開催、会場は満席状態で筆者などは控え室に座った。100名近く集まっただろうか、多分に宮原当会会長の企画・運営と推測する。

「フォーラム」はパネルディスカッションで、牧野光朗市長(長野県飯田市)、田上富久市長(長崎県長崎市)、早瀬隆司会長(長崎市地球温暖化対策実行計画協議会)をパネリストに、枚本育夫代表(NPO法人環境市民)がコーディネーターをつとめた。東日本大震災に伴う原発事故以来のエネルギー政策の根本的見直しを求めて、長崎市では被爆地として原発に依存しない循環型持続低炭素社会への取り組みを進め、一方、飯田市ではエネルギーの地産地消に向けて太陽光発電所や市民ファンドによる再生可能エネルギーの普及を先進的に進めている。議論は“場当たりの理論ではなく、何をどうするか”といった切り込みもあって、メガソーラーシステム化など活発な意見交換が行われた。環境モデル都市・飯田の挑戦と銘打った、“おひさま0円システム・メガソーラーいいだ、木質バイオマス(ペレット)の普及拡大、マイクロ小水力発電、ラウンドアバウト社会

実験”は大変参考になった。

「シンポジウム」は文部科学省大学発グリーンイノベーション創出事業H24年度研究成果発表会を兼ね、貴島勝郎学長の挨拶の後、基調講演「エネルギーシステムインテグレーション」(萩本和彦：東京大学生産技術研究所・特任教授)、招待講演「グリーンイノベーションのためのスマートパワーエレクトロニクス技術」(黒川不二雄：長崎大学大学院・教授)と題してそれぞれ60分の講演があった。

萩本教授は“電力供給の将来”という副題だったが、次のような質疑応答があった。(Q)揚水発電の可能性は？(A)時間がかかるが再整備の可能性は大きい、(Q)水素ガスみたいな使い方はできないか？(A)電気はそのまま使ったほうがいいが導入した場合蓄電上ペイする段階が不明、(Q)送配電ロスを見るとよいのでは？(需要はあると考えられる)、(Q)今後のシナリオはどのような方向に行くか？(A)何をやりたいのか見極めることだ、どれでも選べる。

黒木教授はエネルギーを効率よく運用する情報技術を活用するためには、それらをつなぐデジタル制御技術が重要であることを強調され、“スマートパワーエレクトロニクス技術”の効果として、次世代では高速比例制御とピーク電流制御が、次々世代ではモデル制御がアナログ方式では出来ない高性能を実現することを説明され、これらは様々なエネルギー源や負荷からなる複雑なグリーンイノベーションシステムに不可欠であると結ばれた。(Q)情報量とエネルギーの関係は？(A)いい質問だ、施設量と使用量との関係で、瞬間的省エネにつながる。

成果報告会では長崎総合科学が文部科学省の“緑の知の拠点事業”に採択された、「次世代グリーンエネルギーデバイスのシミュレーションモデル化と学内マイクログリッドを用いた評価・検証試験」についてそれぞれグループ担当教授・研究員から1)事業の進捗 2)バイオマス発電 3)潮流発電 4)高性能リチウムイオン電池 5)モデル化の報告があつて牧野圭祐氏(京都大学名誉教授・長崎総合科学客員教授)から、小規模大学の膨大なエネルギー開発研究に敬意を表するとの講評があった。最後に長崎総合科学新技術創成研究所の山邊時雄所長の挨拶で締めくくられた。

## 中西教授(植物生態学)、お世話になりました～長崎大学教育学部最終講義：種子撒布のナゾを解く。

事務局

本年度末で退官された、中西弘樹教授の最終講義が2月28日(木)16:00から31番教室であった(90分)。中西教授には公私ともどもお世話になった。当会でも、メルカつきまちでの研究会でお話を伺ったこともある。穏やかな人柄ながら鋭い観察力はさすがで、アリが植物の種子を運んで繁殖戦略を取り入れた等々、“植物の神秘性、偉大さ”を熱っぽく語られた姿が印象に残る。長崎女子短期大学学長

の職から教育学部教授に来られた、根っからの研究者であると改めて感じた。退官後は、熱帯植物研究所を設立されて、時折、県の仕事(亜熱帯植物園顧問など)を手伝われると聞く。お世話になりました、ありがとうございます。(技術あがりのアマチュアとは雲泥の差、と自分の俗物性に多いに恥じ入った。感謝。川里弘孝)

## 今年も、シャクナゲ鑑賞登山！！：とりかぶと自然学校

事務局

4月29日(月)晴天に恵まれ、例年のとおりに行われました。大人25名余・小人15名余が10:00とりかぶと自然学校:(大村)校庭に集まりました。今年は家族連れが多かったようです。同時に新人歓迎会を兼ねた長崎大・活水大のネイチャーズ・じゃすみんの会グループが先発しました。本隊は10:30過ぎに出発して摩利支天宮には11:50頃に到着しました。老トル2人も10:15には歩き始め11:20に到着しました。今年は何年になく”ツクシシャクナゲ”のなり年、鳥甲岳(769m)付近崖地での多くは満開、華麗な花を咲かせていました。また摩利支天宮の尾根筋には“サイゴクミツバツツジ”が早くも可憐な紅紫色の花をつけていました。この樹は葉と花がほぼ同時にでるのが特徴です。昼食後、“ツクシシャクナゲは葉の裏面に綿毛が密生する”など専門家はだしの鯖江さん(自然学校担当:通称サバッチ!)の解説を聞き、これら群落を満喫しながら下山、とりかぶとドームで解散式、摩利支天奉賛会からの“大村ずし”の差入れをご馳走になりました。サポートの自然学校リーダーの諸兄・諸姉ご苦労さんでした!(お握りありがとうございます)、菅理事長、宮原学校長お世話になりました。参加者の皆さんお疲れ様でした。来春もまた!



鳥甲岳(769m)西陵縦走路付近



とりかぶと・ドーム棟での反省会

## 「いのちをもらう元気野菜づくり」

講演会：NPO大地といのちの会 吉田俊道氏  
 於：長崎歴史文化博物館

事務局

3月3日(日)14:00から「健康生きがいがづくり長崎協議会」(南 敏康会長)の主催で開かれた。2回目の演題は「いのち輝く食育と元気人間づくり」で、ホールはほぼ満席(100名?)で、吉田理事長の科学的ながら話題豊富で、楽しい2時間近くの講話だった。吉田さんは県農業改良普及員を経て「大地といのちの会」を結成し、生ゴミリサイクルの野菜づくりと元気人間づくり旋風を起されて著書も多く、県環境アドバイザーなども務められている。同会は総理大臣表彰も受賞していると聞く。“土～野菜～人 いのちの循環を育む微生物”の主なキャッチフレーズは 1) 超元気野菜が各地に出現中、2) 命はつながっている(生ごみは最高の宝物!) 3) 虫はおいしい野菜を大嫌い!(おいしい野菜ほど虫も食うはウソ!), すばらしい自然の循環と共生のしくみ(ともに生きる!日本人の感性の根底に流れる感覚～ハコベが生えるまで堆肥をはこべ)、循環・共生と逆行する排他・競争社会→このままでは破局への道を加速 4) いのちいただきます～大地の生きる力とつながろう 5) いのちを回して元気野菜を自分で育てよう。このほか無農薬で元気でうまい野菜を育てるには、自然の生命力とつながる食生活17項目などの実践的アドバイスがあった。よく噛み、番茶を飲み、声を出すとのことであった。

(通信や本の申し込みは事務局0956-25-2600へ、メルマガは「だいちの声」で検索。) (川里弘孝)

## 現代に生きる百年の森づくりは 先人達のせめぎ合いだった! 『明治神宮 伝統を創った大プロジェクト』(今泉宣子<sup>よしこ</sup>)から～その1

事務局

～伝統の上に近代知を取り入れた、全く新たな神社の誕生だった。70万㎡にも及ぶ鎮守の森、「代々木の杜」とも称される明治神宮は鎮座から90数年を数える(S3年完成)。西洋的近代知と伝統のせめぎ合いの中、独自の答えを見出そうと悩みぬいた果ての、造営者たち12人の挑戦(表紙コピーから)～。著者は膨大な文献を丹念に調べ、記録し、考察した。人と人とのつながりと現場体験が人を育ててゆく過程がよく理解できた。学生時代、その荘厳さ(とくに外苑: 絵画館と神宮森のバランス)に触れ、さらに献納樹木によって造られたと聞いてショックを受け、以後、建築・土木・造園技術のすばらしさを享受した。老いて今なお、“先達の偉大さ”また“造園の草創”を本書で再確認した。ここでは、著者が取り上げた12名を追って、関わった多くの先人の功績を辿り、それ以外に数多くの人々の変心、努力、協力があつての造営であったこと: “明治神宮複合コンプレックス”(著者)に想いを馳せてみたい。(人名を除く太字は著者がとくに強調した字句)

**まえがき** 著者は林苑、公園、歴史、芸術のせめぎ合いによって生まれた、神社の誕生の力学に惹きつけられたという。それぞれの分野の人々の汗の結晶、葛藤はどの時代にもあり、物事はしかるべきところに落ちるのだ。

### §1: 運動体としての明治神宮

1) 「明治天皇」の終焉<sup>しゅうえん</sup>: 激動の時代の明治天皇の崩御は二つの御息所(京都と東京)を生んだ。神宮造営は長期間にわたり自ら変化を生じていくようなダイナミズムをもった営為だったと著者はいう。

2) 【渋沢栄一】: 民間有志の神社請願 “民間の声で国を動かす”はこのとき既に70歳を超えていた実業家として彼の命題だったらしい。尊皇攘夷だった彼が幕末の徳川家(慶喜・昭武)の万国博覧会(パリ)出席に随行した事実は歴史が語るころだが、その才気と裁量は將軍自身に買われたようだ。その折の想い“社会公共事業への転回”が彼を動かした。

3) 【渋沢栄一】: 神社奉祀調査会から造営局へ 渋沢栄一(有志会委員長)と阪谷芳郎(東京市長)、中野武蔵(東京商議所)が集まり神社奉祀調査会は動いた。井上馨、山縣有明らへの請願の結果が、二つの御息所: 「伏見桃山陵」・「明治神宮」の創建決定である。当初の明治神宮計画案では、内苑(御料地)は国費、外苑(旧青山練兵場)は献費、さらに奉賛会の組織化などの実行方法等が覚書きされた。この折には既に記念絵画館の設置など空間構成が決められていた、また渋沢らの請願・建議の連続が両院の可決を促

したと筆者は強調している。渋沢栄一はパリでの三つの体験、一つはフランスの株式会社組織、二つは官尊民卑でないこと、三つはベルギー国王との謁見での言葉「自国の産の売り込み：民間経済人の地位を向上させ官民平等の社会を実現する」、を肝に銘じたという。原 敬会長（内務大臣）のもと渋沢は阪谷とともに委員に任命され、「人為で数百年後に向けた神聖な森を作ってはどうか」という基本方針を固めた。折下吉延・阪谷芳郎との出会いも大きい。阪谷芳郎（大蔵大臣のち東京市長）は二度の欧米諸都市の体験が東京市長時代に活かされたと言われる。「帝都は建物・公園・道路が無言の教育の場として品格ある都市を計画すべし」である。そして奉賛会は財団法人化されて設計・施工は造営局に委嘱された。まさに内外苑一体、官民一体の明治神宮造営事業が進められた。

4) 【阪谷芳郎】：奉賛会の使命感 造営経費のみならず完成後の維持管理の資金繰り仕組みについても模索していたらしい。渋沢とともに「カーネギー国際平和基金」を模した「基金」をつくり運用することだった。しかし、全国的な奉賛運動が相当な実績を上げたにもかかわらず、当時の経済情勢は物価高騰して計画実行を困難にし、さらに関東大震災が大きな打撃を与えた。外苑竣功奉納 (T15) をもって解散とされ、阪谷奉賛会理事長最後の仕事は最後の一銭までおろそかにせず残金は明治神宮御賽銭として献金され、精算人として残務整理にあたり解散することだった。そして東京府・市・商業会議所三位一体の奉祝事業は、氏子組織でもあった民間主体の「明治神宮祭奉祝会」（後藤新平委員長・東京市長）に引き継がれ (S12)、終戦まで続いている。

5) 【田澤義鋪】：青年団の奉仕と修養と 10万本の献木による森づくりは献納樹木なくして全く不可能だったが、献木事業の発案者は初代造営局長の井上友一であったとされる。内務官僚で地方自治にも通じた彼は、神社局長時代「神社を中心として民心の統合を図る」を唱え、神社整理事業を実施した。献木希望者には樹種・樹齢・樹高を記入して出願するよう根回しをし、2年後の春季に搬入させている。そこには青年団の造営奉仕が大きく貢献し、鉄道・汽船各社は5割引運賃で協力している。献木は自治体や学校等の記念事業として展開され、計画所要数以上の95,559本も集り、さらに青年団（18～24歳・50～60人1団・5～10日間合宿）の造営奉仕（土木作業：209団体・延13,000名・1道3府43県）なくして本事業は成就しなかったといわれる。企画立案は田澤義輔造営局総務課長であった。彼は造営に従事する以前から“青年団の父”称され、『次郎物語』（下村湖人）での青年塾理事長の田澤先生のモデルとされる（下村と田澤は同郷の先・後輩で、田澤の父は佐賀藩主に仕えた）。鍋島直彬は佐幕藩論を覆して薩長土肥の基盤を築いた。田澤は静岡県郡長時代、青年団修養講習会（宿泊研修：サマーキャンプ）にかかわり、蓮沼門三と組んだ「修養団」活動：テント講習会が定着した。「修養団」は一般青年年と指導者を結ぶ中間青年（リーダー）として位置づけられた。

田澤の想いは、一つに青年育成理念を道義求めて日本の「武士道」を参考にし、二つには日本の青年団活動が世界の模範としての実績と可能性を兼ね備えていることを、主張していたことが上げられる。ある教義や主張に共鳴した思想団体ではなく、日本の可能性を秘めた青年団活動だった。世間の理解に欠けたが、明治神宮造営の現場は願ってもない舞台だった。全国各地を代表して参加した青年が、帰郷後は地元青年団の中堅青年としてその経験を活かしてくれる期待、すなわち人倫の堅持：道の国日本の完成が理想だった。再び「労使協調運動」で渋沢副会長との連携し、労務者講習会の実践や日本青年館の設立などで、日本の将来を託しての一步を踏み出す（「日本青年館」の完成、T14）。

6) 時代をこえて 渋沢栄一は昭和6年に没したが、彼は20年の歳月を費やし完成した明治神宮聖徳絵画記念館の80枚のうち、最初の1枚を献納している：「グラント将軍との御対話」。ここで彼は、日本の地位を安固ならしめ世界平和を図るため太平洋に眼をそそぐため米国と親しくなることが、グラント将軍来日歓迎の意義だと申し述べている。

（著者：今泉宣子の問うてきた要点）

1. 明治神宮造営は“祈りの杜づくり”であると同時に都市東京の未来を見据えたまちづくりであり、さらに近代日本の歴史継承を願い“記憶の場”をつくろうとする営みであった。そして全国規模での造営運動を通じて次代を担う人づくりを目指したようにまさに多面的な要素を内包した創造行為であった。2. 偉業を成し遂げた神宮造営の主導者たちの使命感を支えた原動力として、明治神宮に世界の中の日本を代表する姿を実現しようという気概であった。その林学・建築・都市計画・美術といった専門領域としての時代の開拓者たちの奮闘を追体験すること。3. 多彩な顔ぶれの造営者たちが妥協なく理想を追求した試行錯誤の過程があったからこそ、内苑・外苑そして両者をつなぐ参道からなる複合的な神宮造営コンプレックスの誕生が可能になったということ。すなわち不毛の代々木の原を代々木の森にかえる「鎮守の森」の理想型を世に問うことになった。

出展：今泉宣子『明治神宮 伝統を創った大プロジェクト』。新潮選書、351pp。（続く）

## コラム — 現代のドンキホーテ～53 旅 人・エコ爺の the twitter③

事務局

また水田が潰れた。毎朝、3km弱の川べりをゴミ拾い散歩しているが、堤防下の水田およそ2.7haに大型重機が入り、工事関係者に聞くと宅地造成だという。住宅が必要なのはわかるが、需要があるからと供給に応じて簡単に農地を潰すことはいかかなものか？地域社会における土地対策の貧弱さを疑わざるを得ない。

地主の思惑もさることながら、まず出発点の農業委員会の猛省を促したいと思う。土地利用計画法上、問題ないかと地方計画・都市計画もないがしろしているのだろうか。農地転用、宅地開発、建築基準、都市計画等のクリアだけでは済まされないのだ。上級機関の指導はどうなのだろうか？地主・農家も水田を維持できない、だれも責任を取らない、取れない、日本の現実を身近に感じる日々である。

## ブックガイド 最近の読書から

### ●明治神宮 (今泉宣子). 新潮選書, 351pp.

膨大な資料を、エネルギーで女性らしいきめ細かな歴史観で噛み砕いている。明治時代初期、東京・新宿がタヌキの代々木が原であったことは知っていたが、本書を「伝統」を創った大プロジェクトは造営に挑んだ無数の庶民の姿が想起されるとノンフィクション作家の保坂正康は評している。(造園サイドでは重要なイベントだったので、詳しくはNL・本文で連載を予定している。)

### ●建築家、走る (隈 研吾). 新潮社, 222pp.

名指しで皮肉られている「長崎県美術館」(2005)では、“役人は海岸の運河にも手すりをつけたい”という役人のリスク回避意識、つまりだれも責任を取らない、とれない組織にあきれ果てている。でもそれを乗り越え妥協できるのがプロの技ではある。(著者がいう“中国の「オーナー文化」と日本の「サラリーマン文化」とを比較して)“あとがき”で清野由美氏は「現場をだいにする心が伝わってきた」と書いているが、「サラリーマン機構というのはリスク回避システムのことだ」とも言っている。

### ●野村再生工場-叱り方、褒め方、教え方 (野村克也). 角川書店, 191pp.

東北楽天イーグルスが創設から9年かけて、やっと今年リーグ(初)優勝をものにした。星野仙一監督が3年目にして得た優勝であり、平成23年3月11日の東日本大震災の復興への原動力として、TVでの取り上げもまた目に新しい。ただ私は、その根底に野村野球のベースがあったのではないかと想像する。「失敗」と書いて「成長」と読む。「かすみ草」が「ひまわり」に勝つには等々、経験から来る文言(ぼやき)には、人をひきつける魅力がある。

### ●明治人の姿 (櫻井よしこ). 小学館, 190pp

武家の躰、男の覚悟、女の道、夫婦の絆、親の看取り等の「明治人の美德」を名著「武士の娘」の記述から、著者がわかりやすく記している。昭和以降に生まれた日本人が失った本来の日本人の気質、誇り等々、私たちがもう一度振り返り、取り戻すものがあるのではないかと今の日本の現状を打開するためのヒントがそこにあるような気がする。

### ●日本人の苗字-30万姓の調査から見たこと (丹羽基二).

光文社, 222pp

平成の南方熊楠とも称される著者。柳田国男からは「それでは食えんぞ」といわれながらも、こつこつと調べ上げ「日本苗字大辞典」をまとめた。その一部がここにある。世界で最も数が多く、しかも、もっとも古い歴史を持つ苗字の歩んできた道を振り返るのも良いのではないかと。ちなみに、私の苗字は載っていなかった。親父曰く、海賊の筈なのだが。。。。

## 事務局だより

- 事務局もいろいろ手を尽くしていますが、会費未納で名簿削除者が増えています。1年分でも収めていただくと復活を認めていますので、会員同士お声がけ願います。<3年間会費未納者>

平野 実・松尾公則・姫野順一・石橋康弘

- Eメールのアドレスをお知らせください。郵送料節約のため、会員への連絡はEメールで行うよう試行中です。未登録の方、是非お知らせください。

## 編集後記

今年度から、総会でフォーラムの事務局長を蒲原新一氏(長崎総合科学大学)にお願いすることに決まりました。これからの情報化社会における、当共生フォーラムを背負っていただくに最適な、少壮情報科学者だと心から期待しております。今回も当方のミスで発刊が1ヶ月遅れ、しかも記事、内容は支離滅裂で申し訳ないです。『明治神宮』は造園関係者にとっては因縁深い場所なので一挙に載せました。相変わらずのアバウトな編集、読みづらさも含めてお許し願いたい。(K)

### 【編集部から】

原稿を募集します。論説・随想・紀行文・技術報告・写真等、体裁は問いません。500~1,200字程度でお願いします。二段組みはこちらでやります。E-mailでの投稿、大歓迎です。(M) (nagasaki\_coexistence@hotmail.com)

<b>事務局</b>	<b>会長</b>	<b>宮原和明</b>
	〒850-0036	長崎市五島町3-3-206
	NPO環境カウンセリング協会長崎内	
	TEL: 095-818-3305/FAX: 095-826-3693	
	牧: 090-7161-5408	
	HP: <a href="http://www.nature-man.org/index.html">http://www.nature-man.org/index.html</a>	
	E-mail: <a href="mailto:Nagasaki_coexistence@hotmail.com">Nagasaki_coexistence@hotmail.com</a>	
<b>アネックス1</b>	<b>事務局長</b>	<b>蒲原新一</b>
	〒851-0121	長崎県長崎市宿町3-1
	長崎総合科学大学 環境・建築学部 人間環境学科	
	TEL 095-838-5156	
<b>アネックス2</b>	<b>副事務局長</b>	<b>為永一夫 (県央地区担当)</b>
	〒856-0820	大村市協和町790 (株)タメナガ造園
	TEL: 0957-54-0271 FAX: 0957-54-1127	
<b>アネックス3</b>	<b>副事務局長</b>	<b>赤瀬憲市 (県南地区担当)</b>
	〒851-0104	長崎市船石町1184 (株)水樹
	TEL: 095-839-1860 FAX: 095-839-9103	
<b>アネックス4</b>	<b>副事務局長</b>	<b>田維豪裕 (県北地区担当)</b>
	〒857-1161	佐世保市大塔町574-5 (株)庭建
	TEL: 0956-31-2011 FAX: 0956-31-2310	